

# 34 九州・山口企業とアジア経済

期間 28年 11月2日(水)~12月21日(水)[全7回]

応募締切  
10月26日(水)

実施場所 九州国際大学地域連携センター(サテライト・キャンパス)  
〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 コムシティ2階(42ページ地図参照)

申込・問合せ先 九州国際大学地域連携センター  
〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 TEL: 631-2203 FAX: 631-2204

時間 18:00~19:30

定員 30名

受講料 4,000円

## 講座概要

実施機関：九州国際大学地域連携センター

10年前のアジアでは日本の経済規模が他国・地域を圧倒していました。2番手の中国のGDP(国内総生産)は日本の3分の1にすぎず、他国・地域はもっと小規模でした。しかし、今や中国のGDPは日本の2倍を超え、米国に次ぐ世界第2位になりました。20数年先には中国だけでなく、インド、東南アジア諸国連合(ASEAN)のGDPも日本より大きくなっている可能性があります。

世界の経済発展の中心であるアジア各国・地域の経済について、われわれ北九州市民にとって身近な存在である九州・山口企業との結びつきから説き起こし、その強みと泣き所を解説いたします。無味乾燥な教科書的なアジア経済論ではなく、われわれの住む九州・山口がこれから「アジアと共存する」ことの重みを一緒に考える時間にできればと思います。

月 日	テーマ・内容	担当講師
11月2日 (水)	<b>つじり茶屋と台湾</b> 小倉の抹茶カフェ「つじり茶屋」が台湾に出店し、成功しています。安価とは言えない「抹茶パフェ」が売れる台湾とは？砂糖キビ、バナナの国がハイテク工業国に変身した理由を解き明かします。	九州国際大学 特任教授 江本 伸哉
11月9日 (水)	<b>味千ラーメンと中国</b> 熊本なら誰でも知っている「味千ラーメン」。実はアジア各国、特に中国でのチェーン展開が最大の収益源です。その背景には中国人の生活水準の急速な向上があります。その秘密を説明します。	
11月16日 (水)	<b>安川電機と中国</b> 地場大手の安川電機が虎の子の産業用ロボットを中国で造り始めました。「ブーメラン」懸念の中、中国に出た背景には深刻な人手不足があります。「未富先老」が心配な中国経済のアキレス腱とは。	
11月30日 (水)	<b>黒崎播磨とインド</b> 黒崎播磨は製鉄所向けの耐火物の日本最大手(世界3位)ですが、内需が伸びない中で力を入れているのがインドの鉄鋼大手のタタ製鉄への輸出です。インドは中国以上の経済成長が見込めるからです。	
12月7日 (水)	<b>九州電力とインドネシア</b> 九電はスマトラ島で地熱発電所を建設し、同国国営電力会社に販売します。日本の電力会社が海外で地熱発電を手がけるのは初めて。その戦略と背景にあるインドネシアの経済成長の秘密を探ります。	
12月14日 (水)	<b>日産九州と韓国</b> 日産九州は韓国から高品質、低価格の自動車部品を積極的に輸入し、世界市場で最激戦の小型車の国内生産を守る砦として奮闘しています。部品調達の短納期化に関釜フェリーが活躍する訳は？	
12月21日 (水)	<b>ユニクロとバングラデシュ</b> 宇部発祥、今も山口に本社を置くユニクロは「China Plus One」戦略としてバングラデシュでの縫製を急増させています。世界的な最貧国がいま「世界の縫製工場」に躍り出た背景を解説します。	